



▲完成した夕食(ドリア)。美味しくできました!



▲ルールを守って手持ち花火を楽しみました。

食後は、田町児童遊園で花火を行いました。立地の関係で、残念ながら、事前に、打ち上げる花火は禁止と

子ども会育成会主催 公民館に泊まって遊ぼう

コロナの影響で日帰りや中止が続いていましたが、今年は泊まる事ができるようになり、8月4日〜5日にかけて、小学1〜6年生39人が公民館に泊まりました。

城北地区子ども会育成会の由井会長より、3つの約束として、①ゴミはゴミ箱へ捨てる ②スリッパはきちんとそろえてぬぐ ③走らないこと、のお話がありました。子ども中心に夕食の献立を立て、駅前

飯は美味しいとの声が多く聞こえました。食後は、田町児童遊園で花火を行いました。立地の関係で、残念ながら、事前に、打ち上げる花火は禁止と思

の説明がありました。その後、スイカを食べ、5・6年生中心に作ったお化け屋敷を、1〜4年生が2人組になって楽しみましたが、怖くて泣いてしまいう子もいました。2日目は、早朝に図書館前の公園でラジオ体操を行い、田町町会の後藤先生の説明で、松本城散歩に出かけました。帰ってきてからの朝食は、育成会の方々がサンドイッチを作ってくれ、美味しくいただきました。館内の清掃後、



▲7/30(日) 徒士町七夕まつり



▲8/3(木)〜8/4(金) 蟻ヶ崎北町会、青山様・ぼんぼん

◆◆◆◆◆
民生児童委員会
視察研修
8月18日、民生児童委員会の今期初めてのバス研修会を行い、17人が参加しました。長く委員をされていた先輩方が退任された中、2期目に入った6人と、新人の方々との出発です。私達民生委員も、コロナ禍で勉強会や研修があまりできませんでしたが、先輩に聞きながら、一番大変なことは何なのか、話し合いました。顔と名前が一致していません。伊那市のかんてんばガーデン

ンや駒ヶ根市の養命酒酒造を見学し、健康について学びながら関係を築く参加者
参加した委員は、親睦を深めながら、次回の定例会について相談したり、民生の仕事について相談したりしていました。来年、再来年は児童施設や高齢者施設見学を取り入れて、更に勉強していく研修会にしていこうと考えています。

▲養命酒酒造にて

▲健康について学びながら関係を築く参加者

城北

令和5年9月1日現在	
総世帯数	3,781
総人口	7,842
男	3,753
女	4,089

文化バスの視察研修
「県南の地・阿南町に
民俗芸能の里を訪ねる」

8月24日、総勢30人の参加者でバス研修を行いました。今回の研修の目的は、①県南の地を経験する②下伊那の成り立ちに触れる(富草の化石館)③新野に伝わる伝統芸能を知る、の3点です。

最初の研修場所の阿南町化石館までは2時間30分ほどかかりました。阿南町一帯が新第三紀中世代には海底で、そこに堆積した地層が富草累層と呼ばれ、それがこの周辺の地名にもなっています。昭和52年に、旧富草中学校の生徒たちによって採集された化石標本をもとにして化石館が開館しました。化石の展示とパネルを使っ



▲阿南町化石館にて

た説明は見ていても飽きさせない充実した内容でした。次の阿南町農民文化伝承センターでは、民俗芸能の資料を一堂に集めて見学できるように展示がされています。「新野の雪まつり」「新野の盆踊り」「和合の念仏踊



▲阿南町農民文化伝承センターにて

「日吉の御鋏まつり」「早稲田の人形芝居」の資料が展示されていて、職員の方の説明を受け、解説ビデオを見ました。施設内で「風土と生活館」が併設されて現代までの阿南町のくらしに重点をおいた展示がされていました。南信と阿南町についての見識を深めるよい一日となりました。

平和を語る会

ひめゆりの沖縄戦

終戦の日が目前の長崎被爆の日8月9日に、城北地区人權啓発推進協議会主催の恒例の「平和を語る会」に、30人が参加しました。

今回は沖縄最南端糸満市のひめゆり平和祈念資料館の



▲沖縄県とオンラインでつながりました。

説明員・仲田さんと、オンラインで結び、ひめゆり学徒隊のお話を伺いました。戦争末期に米軍が上陸を開始して、激しい戦闘が行われた沖縄戦で、ガマ(鍾乳洞)などで、大勢の若いひめゆり学徒隊が犠牲となりました。彼女らの死を悼み、平和の尊さを伝えるため、同窓会の皆さんが資料館を設立し、体験記録や資料を残り、戦没者を追悼するひめゆりの塔も建てられました。

ひめゆり学徒隊は15歳から19歳の女子生徒で、昭和20年3月に学校から沖縄陸軍病院に動員され、壕の中に作られた病棟で活動開始、看護や水汲み、伝令、食料運搬などを、昼夜を問わず命がけで行い、その後米軍に追われ南部へ移動しました。6月18日には解散命令が出て、おのおのでバラバラに逃げるなか、大勢の死傷者が出ました。「米軍の捕虜になるのは恥」「アメリカ人は鬼」と真実を知らない若者たちの中には、敵に捕まる前に手榴弾で自決の道を選ぶ生徒も出ました。

沖縄は地上戦約90日、戦死者は実に20万人を越え、当時の沖縄住民4人に1人が亡くなっています。ひめゆり学徒隊も半数以上となる136人が亡くなりました。

現在ロシア、ウクライナで戦争が続いていますが、早く終わって二度と地球上で戦禍がなくなるようにと、祈ると共に、戦争の悲惨さと、命の尊さ、平和の大切さを学ばせていただいた有意義な清聴会でした。

令和5年度
城北地区地域ケア会議

城北地区住みよい町づくり協議会 福祉の部会の主催で、テーマ「いざという時に助け合える城北地区をめざす」と題し70人の皆さんと、信州大学経法学部の井上信弘教授、三師会の4名の先生や井上ゼミの学生さんも参加され開かれました。

初めに高齢者世帯、老々介護の城北松男さん夫婦の暮らしを考える、地区に特徴的な高齢期の生活課題をもとに作成した事例発表が地域包括支援員から行われ、その後8グループに分かれ、参加者の個人意見が述べられました。本人であったら何に困ったか、不安に思うことがあるか、また、ご近所に住んでいたらどんなことが



▲グループでの活発な意見交換



▲地域包括ケアシステムのお話もありました。

気になり、周りの人がどんなふうに関心を持てるかができるかについて考えがかわりました。本人らは困っていない、夫婦の間に他人が入るのは難しいのではと切実な意見もありました。次に井上教授から、令和の時代の「地域包括ケアシステム」を「老老介護」を支える城北地区のまちづくりと題し講演がありました。元気健康であるためには、地域のつながりと笑顔が大切であり、そのためには身近なところに仲間が集う場が必要である。自分の健康を維持し続け、自分ひとりではできないことを手助けしてもらえ、日頃から人がつながる町づくり、笑顔になれる町づくりを各地域でつくることから始めようと結ばれました。大勢の皆さんからたくさん活発な意見が出され、とても有意義なケア会議になりました。